

経済の縮小に 対応できる社会とは

近代日本
ものづくり
研究会

INDUSTRIAL HISTORY OF JAPAN



～谷根千工房の実践をヒントに～

成長から縮小に向かう経済に対応可能な社会とは？
谷中・根津・千駄木、通称「谷根千」地域で住民の暮らしを聞き書きし、発信してきた「谷根千工房」の実践をヒントに、持続可能な縮小社会への道について話します。



日時 2017年5月20日(土) 「地域雑誌 谷中根津千駄木」
14:00～16:00 (13:30開場) 創刊号(写真:講師提供)
日比谷図書文化館4階 スタジオプラス(小ホール)

講師 ■ 松久 寛(まつひさ・ひろし)
京都大学名誉教授。1947年生まれ。京都大学で機械工学、特に振動工学の研究に従事。2012年3月定年退職。また、1973年より京都大学安全センターを設立し、公害や労働災害の支援活動に従事。2008年に縮小社会研究会を設立し、現在一般社団法人縮小社会研究会代表理事。編著に『縮小社会への道—原発も経済成長もいない幸福な社会を目指して—』(日刊工業新聞社 2012年4月)



谷中菊まつり(写真:講師提供)

■ 山崎 範子(やまさき・のりこ)
1984年に森まゆみ、仰木ひろみと季刊誌「地域雑誌谷中根津千駄木」創刊(2009年8月94号で終刊)。翌年(有)谷根千工房を設立。雑誌の愛称はいつの間にか町の呼称となった。また、雑誌づくりと並行して、日本最古のパイプオルガンの修復保存、赤レンガの東京駅の保存、不忍池の地下駐車場建設反対、日暮里富士見坂の眺望保全等の活動を行った。現在も町を記録した映像の発掘・上映、旧安田楠雄邸の保存活用、日本で初めて洋式リボンを織った「のこぎり屋根工場」の部材の一部と資料を保管し、調査を町の人と連携して進めている。



富士見坂(写真:講師提供)



のこぎり屋根工場(写真:講師提供)

■ 定員 60名(事前申込順、定員に達し次第締切)
■ 参加費 1,000円(千代田区民・学生は500円)
※千代田区民または学生の方は、当日、図書貸出券や健康保険証、学生証など住所・所属が確認できるものをお持ちください。
■ 申込方法
電話(03-3502-3340)、Eメール(college@hibiyal.jp)、来館(1階受付)いずれかにて、①本講座名、②お名前(よみがな)、③電話番号をご連絡ください。



内容に関するお問い合わせ
特別研究室
開室時間:平日10:00～20:00(土曜～18:00/日・祝～16:00)
TEL:03-3502-3340(館代表)/メール:laboratory@hibiyal.jp

アクセス
都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分
東京メトロ
●千代田線「霞ヶ関駅」C4出口 徒歩3分
●丸の内線 ●日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口 徒歩3分
JR「新橋駅」日比谷口(SL広場) 徒歩10分